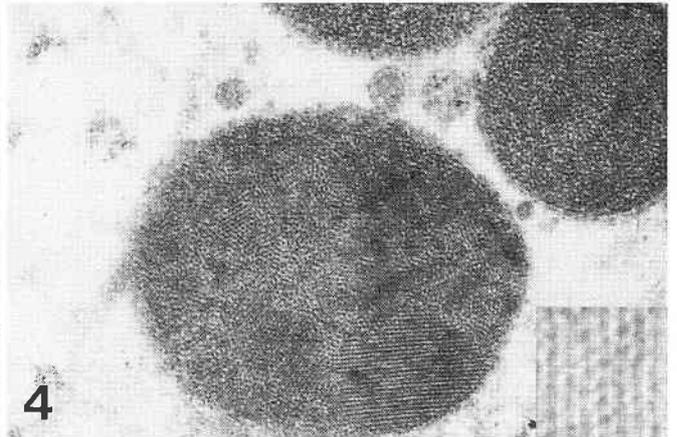
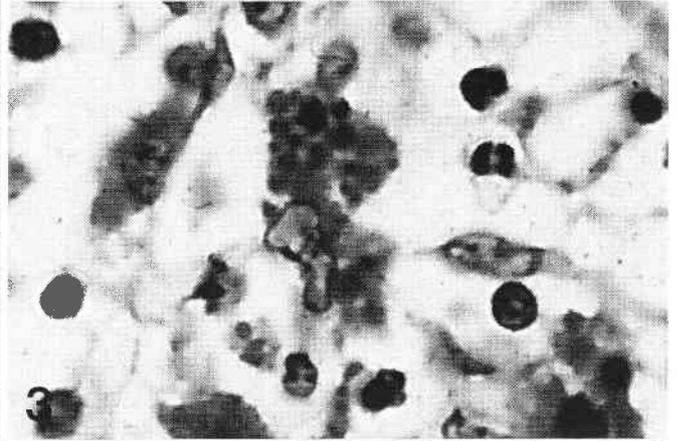
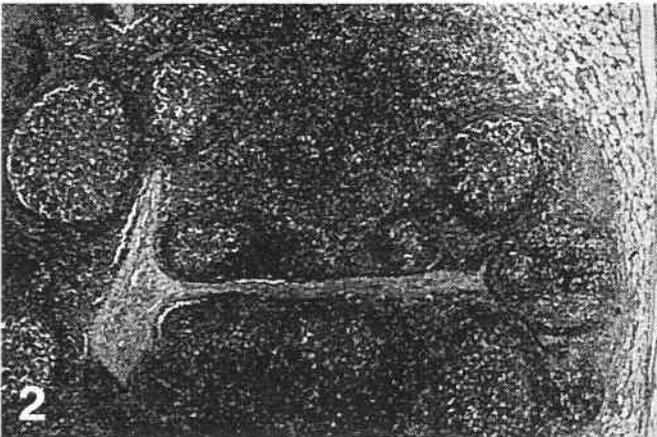
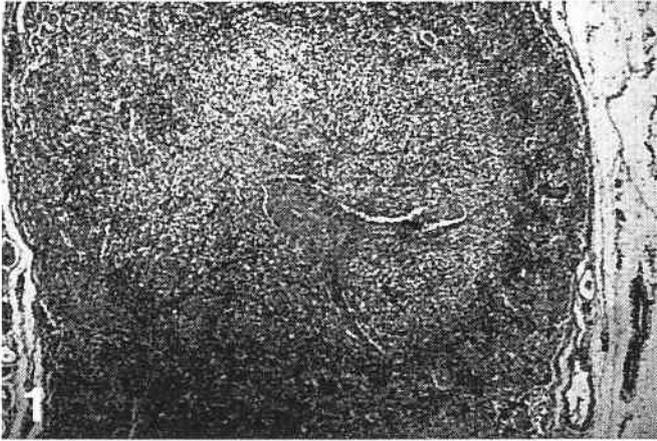


## 豚の腸間膜リンパ節

(財) 日本生物科学研究所 第40回獣医病理学研修会標本 No. 767



動物：豚，デュロック，雌，52日齢。

臨床事項：繁殖豚30頭を飼養する一貫経営の養豚場において一群（n=10）1頭ぐらいの割合で40日頃より呼吸器症状を示し，その後消瘦して死亡する子豚が認められた。本例はそのうちの1頭である。

剖検所見：本例は発育不良で高度に消瘦し，肺の全葉にわたり1.5 x 1.5 cm 面大の赤色無気肺巣が散在していた。肺門および縦隔リンパ節は腫大していた。

組織所見：リンパ濾胞は萎縮・消失し，旁皮質領域の細胞密度は疎となり，リンパ節は全体的に萎縮性であった（写真1；写真2は同日齢の正常リンパ節）。皮質深層から髓質にかけては小血管の増生と充血が認められ，軽度の線維化を伴っていた。皮質から旁皮質にかけてマクロファージと好酸球が浸潤し，それら領域とリンパ洞の多くのマクロファージおよび細網細胞に小顆粒状の好塩基性細胞質封入体が認められた（写真3）。封入体は直径約5～25 $\mu$ mで，複数が1つの細胞内でブドウの房状に多数集合していた。また，封入体を含有する合胞体が

稀に観察された。

封入体はウサギ抗豚サーコウイルス（PCV）抗体を用いた免疫染色で陽性所見を示した。電顕観察では高電子密度の微細顆粒状物と結晶状に配列する直径約17 nmのウイルス粒子から成っていた（写真4）。またリンパ節乳剤を用いたPCR法ではPCV2型のDNA断片が増幅された。

診断名：「PCV感染豚における細胞質封入体および合胞体形成を伴う慢性リンパ節炎」とした。

考察：PCV感染豚の主な肉眼病変は全身リンパ節の腫大で，組織学的にはマクロファージの高度な浸潤，合胞体・封入体形成とリンパ球脱落で特徴づけられる肉芽腫性リンパ節炎が多くに関連論文に記載されている。これに対し本例ではマクロファージ浸潤と合胞体形成は弱く，リンパ球の高度脱落による萎縮・荒廃性変化が顕著で，感染経過の長い症例と推察された。本例に見られたリンパ節の萎縮・荒廃性変化はPCV感染で誘発される免疫不全状態を示唆し，化膿性肺炎を併発したものと思われる。